

市民に開かれた 議会

三重県
鳥羽市
(とばし)



人口：21,177人（H25.3末）
 特徴：三重県の東端部に位置し、
 全域を伊勢志摩国立公園に指定
 されている自然豊かな都市。世
 界で初めて真珠の養殖に成功し
 た地としても知られる。

鳥羽市議会では、平成19年の議員改選以降、市民に開かれた議会とするため、議会報告会の開催、議会基本条例の制定などの議会改革や、全国初となるツイッター導入、議会のインターネット中継など、ICTによる情報発信を推進している。

議会報告会は、毎年度、約30回開催（約600人が参加）しているほか、議会のインターネット中継やツイッターによる情報発信は、議会の活性化につながっている。



鳥羽市議会ツイッター画面

市民に関かれた議会

鳥羽市議会では、平成19年の議員改選以降、市民に関かれた議会とするため、議会報告会の開催、議会基本条例の制定などの議会改革や、全国初となるツイッター導入、議会のインターネット中継など、ICTによる情報発信を進めている。

ICTを活用した情報発信

議会報告会は、平成21年度から始めており、離島には船で出かけ、泊まりがけでの報告会を行ってきた。平成25年度は、10月から12月にかけて27箇所で開催し、154件の要望が市民から提出された。

議会基本条例は、平成22年12月に制定し、議会のすべての会議の原則公開や、議会報告会・意見交換会の開催などを規定した（平成23年4月施行）。

議会状況は、ネット中継を行うほか、ツイッターで議会開催情報などを発信している。特に、ツイッターについては、利用者は一度フォローすると情報を受け取り続けることができ、また、リツイートによる情報拡散機能もあり、利用者、議会関係者双方にとって便利なツールになっている。

議会の運営についても、多くの議員が議場にパソコンやタブレット端末を持ち込み、スライドや写真を使って質問を行い、それをインターネット中継することで、市民に分かりやすい情報発信を行っている。

議会の活性化

積極的な情報公開や市議会に関するアンケートの実施、市民参加の推進、議員間の自由かつ達な討議の促進、ICT化などの議会改革の取組は、議会改革の先進事例として、幅広い団体から評価を受けるに至った。

議会報告会は、毎年度、約30回開催、約600人の参加者があり（平成21年度～25年度の平均）、住民からは「議会報告会や意見交換会はいいことだ。回数を多くして、各地でやってほしい」という声が寄せられている。

議会の様子をインターネット中継することで、市民から「議員は市だけでなく、全国や世界にも中継されているということを考えて発言すべき」などの意見が寄せられているほか、ツイッターのフォロワーが着実に増加（平成26年3月現在で1,293）するなど、議会の活性化につながっている。



タブレット端末と議会モニターの連動



配信動画（写真を使って質問中）

地方分権改革との関連

地方分権の推進による、地方公共団体の権限の拡大等に対応し、意思決定・執行に対するチェック等、地方議会が果たすべき役割が大きくなってきている。

そこで、議会報告会の開催や、簡単にアクセスできるSNSや動画サイトを利用した情報発信など、議会に対する住民の理解を深めることで議会を身近なものにし、議会の活性化につなげている。

関係者からのメッセージ



鳥羽市は、有人離島やリアス式海岸で集落が点在していることもあり、議会を傍聴しづらい環境であることから、ほぼ全ての会議をネットで中継し、全国最多と言われる議会

報告会の開催など、『議会の見える化』を積極的に進めて市民に関かれた議会を目指しています。

（鳥羽市議会事務局議事係長
北村 純一氏）